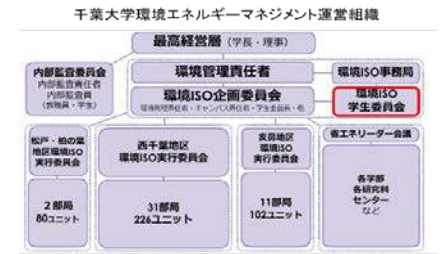


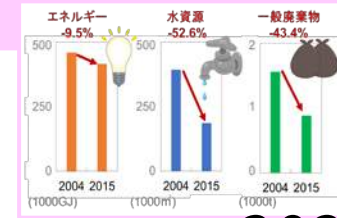
### 学生委員会の組織と仕組み

環境ISO学生委員会は大学のEMS組織の中に位置づけられており、大学内のEMSに重要な役割を担っています。学生委員会は西千葉と松戸キャンパスの二つに分かれており、約180人ほどが活動をしています。学生委員会には様々な班があり、各班が様々な活動を通して、環境教育、紙・ごみ・エネルギーの使用量削減、学内外の緑化、学内の落ち葉などの堆肥化、構内環境（放置自転車・喫煙環境）の整備、環境活動の国際化、環境報告書作成、イベント出展などに取り組んでいます。



### 取り組みの成果（環境負荷削減と表彰実績）

千葉大学がISO14001を取得する前の2004年度と2015年度を比較すると、年間エネルギー消費は約10%減少、水資源は約53%、一般廃棄物排出量は約43%減少するなど、大学の環境負荷の低減に寄与しました。また、10年以上にわたる学生主体での取り組みが評価され、2015年には地球環境大賞文部科学大臣賞を受賞、2017年には世界的にサステナブルキャンパスを促進する大学ネットワークが主催する「ISCN Award 2017」のStudent Leadership部門を日本で初めて受賞しました。



### 企業と協働して生むサステナビリティ

# 302

### 学生の参画によるサステナブルキャンパス実現に向けた活動

#### ① 学生主体のEMSの運用

学生委員会では、千葉大学の環境マネジメントマニュアルの改訂や、環境目的・環境目標・実施計画の原案作成、監視測定及び内部監査の実施、外部機関による認証審査への立ち会い・議事録作成など、EMSの全生部分を担当しています。4月には基礎研修の講師を担い、主たる学生、教職員、構内事業者を対象に、千葉大学の環境への取組みを周知します。研修に使用するパンフレットも作成します。9月には内部監査員を務め、100箇所以上の研究室の監査を行います。また、千葉大学の環境報告書は、学生が編集長を担当し、約50人の学生が協力して「構成、執筆、取材、校正、デザイン」のすべてを行っています。



#### ② 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパスづくり

省エネ・省資源やごみの分別・リサイクル、グリーン購入などを推進するために様々な活動を行っています。スイッチのステッカーやポスターの作成、省エネ啓発イベントの開催、うちわ配布といった省エネ活動や、裏紙や汚れない紙ごみをミックス古紙として回収したり（右の黄色い容器）、ごみ分別のバネルづくりなどを行っています。古本市では、学生から教科書や学術書を回収してそれを必要な学生に格安で販売することで本のごみの削減を図っています。さらに省エネのために、緑のカーテンの作成をしています。できたゴーヤは学内の方々に配布をしています。



#### ③ 学生目線で行う環境教育

附属小中学校の環境ISO委員会のチューター役として、小中学校の環境活動を児童・生徒と共にしています。また、附属幼稚園では、園児にもわかりやすいように様々なイベントを行い、環境教育をしています。例えば、学生の手作りの環境紙芝居や、ごみ分別をテーマとしたゲーム、牛乳パックから紙をつくる「紙すき体験」など園児にもなじみやすいように工夫をしています。

### NPO法人格取得により、学外へ活動を展開

当委員会では、学内のEMS活動で培った知識、経験を活かし、学外での活動を広げるため、2009年にNPO法人格を取得しました。NPO法人としては、主に「里山保全活動」、地域の子供に環境問題を教える「eco教室」などの活動を地域社会と様々な企業と協働して行っています。



#### ① 社有林の共同整備

川崎汽船株式会社とは2012年から「里山協定」を締結して「K」LINEの森の里山整備活動を行っています。2016年に新たに公益社団法人環境生活文化機構が主催し、佐川急便株式会社との共済によって行われる「高尾100年の森プロジェクト」にも参加しました。活動の中で子供たちが交流をはかりつつ自然と触れ合える場を創出しています。



#### ② 大学の古紙回収スキームの変更

三菱製紙販売株式会社と協同し、千葉大学が従来無償で回収してもらっていた古紙を、有償で回収してもらうことで、その売上をエコグッズとして大学内に還元するという新しいスキームを大学に提案しました（2017年度から導入）。還元方法として、古紙や間伐材を使用した環境配慮製品の配布や販売を検討中。学生が本사를訪問して打合せしたり、商品をイチから企画して販売するなど貴重な経験となっています。



#### ③ 7色の虹を千葉から未来へ ～千葉大学x京業銀行ecoプロジェクト～

学生委員会が株式会社京業銀行と連携して、様々な環境活動を行うことで千葉県から将来の地球に貢献するという想いのもと2017年7月にスタートしたプロジェクトです。（右図はロゴマークと共同記者会見の様子）本プロジェクトの目的は、県民・県内企業・京業銀行と千葉大学の構成員などに対する環境意識の啓発とそれによる地域社会の活性化と環境負荷削減。そして、京業銀行や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強です。具体的な内容は、『学生による「エコアクション21」取得コンサルティング』として、京業銀行が取引先企業を紹介し、学生委員会がEA21の取得支援や環境レポートの作成補助を行うことや、学生が発案した7つの環境貢献企画（下記参照）を京業銀行と協力して実施することです。



① 千葉大生とともに考える 企業のための環境セミナー

企業が環境活動を促進するきっかけになることを目指して、京業銀行の取引先企業等に対して、環境活動に関する知識などについて、学生が講師となるセミナーを開催する。

② こどもエコまつり

子どもの環境意識向上を目的として、地域・行員の子供たちに対して、環境ゲームやエコ工作体験などを行う環境イベントを実施する。

③ 千産千消フェア ～ちばを食べてエコしよう～

市町村の特産品を千葉大学祭で学生委員会ブースで取り扱うことで、特産品をPRして市町村の地域活性化を支援するとともに、地産地消による環境貢献を推進する。

④ Chibaクリーンアクション

学生や地域住民と一緒に、環境ボランティア体験を行うことで、環境汚染の現状を学び、環境意識の向上を目指す。海岸や街の清掃活動や里山体験などを検討。

⑤ 都市鉱山発掘プロジェクト

学生が制作する小型家電回収BOXを千葉市内の京業銀行全支店に設置して、銀行利用者から小型家電の回収を行い、環境負荷低減や資源再利用への意識を啓発する。

⑥ エコ発信局

京業銀行のWebページや刊行物等の発信媒体を通じて、日々の生活で実践できるエコアイデアなどを学生目線で発信し、広く環境意識の啓発・行動の実践を促す。

⑦ 京業銀行エコチャレンジ

学生が京業銀行の支店を訪問してエコアイデアを提案し、各支店が環境目標を設定。支店ごとの環境への取り組み状況と結果を評価して表彰する。

